

薬草園だより(秋特別号)

肌寒い季節となってきましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？今回はクチナシとメキシカンブッシュセージ、ジギタリスについてご紹介します。



クチナシ (*Gardenia jasminoides*)

クチナシの名前の由来には諸説あります。果実が熟しても裂けたりはしないので口が無い、ということで「口無」という説と、果実の頂点に残る萼(がく)を鳥のくちばし、果実自体を梨に見立てて、口のある梨、ということで「口梨」という説があります。

クチナシの実漢方薬に使用されます。生薬名は山梔子(サンシシ)で、血流を良くする効果があるため肩こりを和らげる作用があります。また血圧降下作用や抗炎症、鎮痛などの効果もあります。



メキシカンブッシュセージ

(*Salvia leucantha*)

メキシカンブッシュセージは綺麗な紫色の花を咲かせるため、別名アメジストセージとも呼ばれています。綺麗なだけでなく、花弁がもこもこしており兔の毛のような触り心地で非常に癒されます。メキシカンブッシュセージはツジヨンという揮発油を主成分としてフラボノイドやジテルペンといった成分があり、食べ過ぎや飲みすぎに有効とされています。



ジギタリス (*Digitalis purpurea*)

ジギタリスは、花の形が指につけるサックに似ていることから、ギリシア語で「指」を意味する「digitus(ディギトス)」が語源になったといわれています。

ジギタリスは株全体に毒があり、これらの毒には心臓の収縮力を強める作用があります。ヨーロッパではかつて乾燥させた葉を原料に薬剤も製造されていましたが、近年は化学的に合成できるようになりました。

ジギタリスの近縁種で茎や花に綿毛が目立つケジギタリスというものもあります。